

消えた街角:富岡畦草・記録の目シリーズ

昭和34年「銀座七丁目の歩道」



「昔恋しい銀座の柳〜」と唄に歌われた銀座中央通りの"しだれ柳"は、明治5年(1872)の銀座火事に懲りた政府が明治10年(1877)に完成した防火対策煉瓦街建設の折りに植えられたのに始まる。

以来、「銀プラ」の流行語とともに親しまれたが、戦後、自動車事故の増加で、交通信号を邪魔するとの声を持ち上がり、昭和43年に惜しまれながら取り除かれた。この辺りには、老舗も多く、撮影地点左側の資生堂パーラーもその一つ。明治5年に資生堂が創業した地に開業した。昭和3年のことである。そうして、今のビルは同社銀座ブティックとともに昭和50年に建てられた。

また、前方右側に見える「ニッポンビール」の看板があるサッポロビールの建物は、大日本麦酒株式会社銀座本店兼ビヤホールとして、昭和6年に建てられたものである。設計者は、旧新橋演舞場と同じ菅原栄蔵であった。大日本ビールが、昭和26年(1949)に、アサヒビールと日本ビールに分かれ、その日本ビールが社名をサッポロビール株式会社と改めたのは、昭和39年(1964)のことである。(昭和34年4月6日撮影)



銀座七丁目、中央通り沿いに日本で一番古いビヤホールとして有名な「サッポロライオン」(1934年創業)、そして六丁目には、1929年竣工の「交詢社」ビルがある。「交詢社」とは、社会の進歩に対応するため互いの知識を交換しあえる機会を提供することを主旨として福澤諭吉によって創設された日本で最初の会員制社交クラブのこと。このたび惜しくも老朽化というやむをえない事情で建て替えが決定したが、その華美な空間の一部は復元保存されると聞く。歴史的建造物の保存については、多くの困難を伴うが、数少ない文化遺産を大事にする意識は持っていたい。

(平成12年6月26日撮影)

写真・文
富岡畦草(とみおか けいそう)
大正15年8月、三重県生まれ 日本写真協会、日本写真家協会、自然科学写真協会などの会員